

Wish

世界の子どもたちのために

vol. **69**

2023年1月号



©長崎洋海

難民キャンプの子どもたち(ソマリア) 写真提供 NPO法人地球のステージ

CONTENTS

EVENT REPORT

2-5

平和学習会「私たちの社会は私たちの手でつukっていこう!」
2022 国際理解講座③「新しいボーダレス」
2022 国際理解講座②「地球のステージ」

7

活動ファイル
2022年9月~12月

8

お知らせ



高橋悠太さん

広島県福山市出身。「KNOW NUKES TOKYO (ノーニュークストーリー)」共同代表。「カクワカ広島」(核政策を知りたい広島若者有権者の会)共同代表。慶應義塾大学4年生。

なぜ私たちは動くのか

若者が核の問題について語る場所が、高校まで過ごした広島にはあったのに東京にはなかったことから、高橋さんたちは2021年「KNOW NUKES TOKYO」という活動の場を設立しました。「なぜ私たちは動くのか」。高橋さんたちの世代は生まれた時から先行世代の決めた核の影響を受け、そのツケを払わされているという感覚があり、核軍縮などに参加できていない違和感を感じています。そこから、自分たちの社会は自分たちでつくっていくんだという意志が生まれました。

国際会議に参加して

6月に核兵器禁止条約第1回締約国会議がウィーンで開かれ、高橋さんと6人のメンバーが参加しました。2017年に採択されたこの条約は2022年9月現在91カ国が署名、68カ国が批准しています。日本は全く参加していません。この条約は核兵器を非人道的な兵器として全面的かつ完全に禁止し、核兵器廃絶への道筋と核被害者への援助を定めたものです。根底には核を持つことでバランスを取ろうとする核抑止への批判があります。今回の会議で採択された行動計画には重要なポイントが4つあります。①広島・長崎の被爆者だけでなく、核兵器の原料となるウラン採掘や核実験、そして廃棄に至るまであらゆるプロセスにおいて核の被害者



高橋さん(左から2人目)と「KNOW NUKES TOKYO」のメンバー。左端はICAN国際運営委員の川崎哲さん。(2022年6月 ウィーン)

がいることを世界に知らせること。

②人間のみならず地球環境への影響を過去からだけでなく未来から今を見る視点で考えること。

③若者、女性、有色人種、社会から疎外された立場の人々が議論に参画しにくい現状を変えること。

④核保有国を巻き込むこと。

今回の会議には若い世代も多数参加しました。また日本同様締約国でないドイツやオランダなどはオブザーバーとして参加し、今後の課題を述べました。それこそが、唯一の被爆国でありながら核の傘の下にいる日本が、当事者として果たすべき『橋渡し』の役割です。

高橋さんたちは参加者と被爆者が語り合う場を設けたり、各国の代表に直接話しかけ日本の被爆者のことや提言を書いたリーフレットを渡したりしました。こうした小さくとも具体的な活動が、行動計画に若者の提言が取り入れられるという成果につながりました。

8月にニューヨークで開かれたNPT(核兵器不拡散条約)再検討会議にも高橋さんは参加しました。核兵器禁止条約は核を落とされる側からの人道的アプローチであるのに対し、NPTは落とす側の段階的アプローチです。何をもって核の威嚇とするのか、核同盟国の定義、責任の所在などを明確にしようしないロシアをはじめとする核保有国全体の不誠実さのため、前回同様、最終文書の合意には至りませんでした。

今の世界のキーワード

今の世界の課題を表すキーワードは「気候変動」と「ジェンダー」です。核の問題においてジェンダーの視点から見ると、核兵器は力を証明するものとして男性社会の中で使われてきたものです。放射線の影響は女性の方がより多く受けるというのは今や世界のスタンダードなのですが、安全保障などの議論に参画している女性の数が少ないため問題が可視化されにくくなっています。

平和学習会

私たちの社会は
私たちの手で
つくっていく！

核廃絶に向けた2つの国際会議に参加した大学生の高橋さんは、世界の同世代とつながり多くのことを感じてきました。9月26日の核兵器廃絶国際デーに合わせて開催した学習会で高橋さんの話を聞き、私たちがつくっていくこれからの社会を考えてみました。

Data イベントデータ

日時 2022年9月25日(日)
会場 兵庫県民会館(神戸市中央区)
参加者 42人

私たちにできること

被爆者がいなくなる時代はもう始まっています。被爆者の体験をかけがえのない教訓として条約の中に落とし込み、条約を育てていくことがこれから必要です。

核兵器禁止条約を知り、議員に核政策を問うこと。核への投資を行わないようダイベストメント(投資撤退:簡単なのは銀行口座を変えること)を実行すること。若い世代の活動を支援し、全世代で共に活動を継続していくこと。これらが私たちにできることで、今は新しい当たり前を作って社会の流れを変えていく過渡期であると高橋さんは話されました。

高橋さんは今、核軍縮について本気で考えるよう政策決定者へ圧力をかける方法として、全国の人々と直接会ってつながりたいと考えています。

2

EVENT
REPORT

大津 司郎 さん

ジャーナリスト。30年以上アフリカ紛争地域取材。戦火のソマリアでの取材経験もありアフリカに精通している。

甲斐 信好 さん

拓殖大学副学長。大津さんのコーディネーターで、長年にわたりゼミの学生たちとアフリカスタディツアーを行っている。

2022 国際理解講座 ③

新しい
ボーダレス

ロシアとウクライナなどの国境の争い、国境などお構いなしの感染症、SNSなど、これまで当然と考えられてきた様々な境界に新しい変化が生まれています。私たちに求められていることは何でしょうか。ジャーナリストと国際政治学者、それぞれの立場から見えるボーダレスについてお話を伺いました。



Data イベントデータ

日時 2022年11月5日(土)

会場 コープこうべ生活文化センター(神戸市東灘区) / オンライン

参加者 60人

自分自身が作っている心の壁を
取り払う

甲斐 「ボーダレス」は国際情勢を考える時の一つのキーワード。人の力で国境(物理的なボーダー)を変えようとするロシアのウクライナ侵攻は世界に大きな影を落としています。かつてのアフリカでは、ヨーロッパの宗主国が地図上に直線を引き、文化や民族に関係なく何とも不条理な国境を定めました。それゆえに紛争も起きますが現実には人々は自由に往来しています。感染症、SNS、地球温暖化にも国境はありません。

社会的にみたボーダーでは、ジェンダーの受け止め方が変わってきました。役所や学校への提出書類では男性女性の項目がなくなりつつあります。

それでは私たちの心の中にあるボーダーはどうでしょうか。日本財団が9カ国で行った18歳

意識調査によれば、自分を大人だと思うか、自分の国にある社会問題の解決に取り組もうと思うかなどの項目に関して日本は最下位でした。不本意入学をした学生がアフリカへ行き大きく変わり、今は村の人々の笑顔が一番楽しみだとアフリカで仕事をしています。自分の心の中のボーダー、実はそれは自分自身が作っていることに気づく体験をしたように思います。今、受け身から能動へ、体験を通して自分自身が作っている心の壁を取り払うこと、繋がることで、閉じた世界を開いていくことが求められています。

世界の現実を肌で感じる

大津 日本では、失われた20年30年と言われています。世の中には体験しなければ分からないことがあります。僕は20年前に「アフリカで学ぼう! 島国日本では理解でき得ない体験をしよう!」と、体験を軸にしたアフリカスタディツアーを始めました。例えば、難民キャンプには戦争のリアルを、大変さ苦勞を分かっている人たちがいます。少しでもそこに行って、彼らと話をできなくても、こういう人たちもいるという事や戦争の向こうにある紛争の事、世界の現実を肌で感じて欲しいのです。

私がアフリカから学んだことは良くも悪くも即応性、即決性です。日本なら本社に持ち帰って検討してなどと言って3か月かかることもあります。アフリカや他の世界は1分あるいは1日で決断して返事をするのです。ところが僕ら島国の人間は、他の国と国境を接していない事や違う言語・文化の人間と一緒に暮らしていないから、そのようなトレーニングをされていません。

ボーダレス、国際化、グローバルな社会の一員として、世界で丁々発止渡り合えるようになるためには、もっともっと人材に投資し、体験を通して鍛えていかなければなりません。

多様性を認め世界へ出よう

甲斐・大津 ボーダレスの社会は多様性を認めた社会です。多様性は良いように聞こえますが鬱陶しいものです。しかし、多様性を鬱陶しがって無視し、交わらないでいると、結局は独りになってそのうち忘れ去られ、自らも無知になっていきます。まさしく私たちが置かれている状況はそれで、日本人だけが無知になっていくことを恐れます。

私たちの次のステップ、進路をどこに求めるかと考えると、世界しかないと思います。日本人も多様性を認め世界へ出て、経験値を高め、そこにある世界と本当の意味で向き合い、一人でもサバイバルをしていかなければならない時代です。私たちが出会ってから20年。アフリカと日本のボーダーをどう越えるかを考え、そして始めたアフリカスタディツアー。このスタディツアーで若い人に伝えていければと思っています。

参加者からの質問

- Q** ケニア、エチオピア、ソマリアの東アフリカ3カ国が過去40年で最悪の干ばつに見舞われ、住民約2200万人が食料不足にあえいでいる。気候変動が関係していると思うが、なぜそうなるのですか。
- A** 気候変動、そして紛争・政治の問題です。「民主化された世界には飢饉は起きない」と言われます。紛争があれば支援物資を届けるのは困難です。政府に届いても敵対するグループに物資を渡さない可能性があります。
- Q** 昨日まで仲良くしていた人が急に敵味方になる。戦争は早く終結してほしいですが、日本はどのように関わっていったらいいのでしょうか。
- A** ルワンダでのジェノサイドに関して、当時、世界でも日本でもほとんど報道されませんでした。今回のウクライナでの戦争では関心も大きくウクライナの難民を受け入れてほしいという要請が学校にもきました。関心を持ち続けることが重要です。

EVENT
REPORT

2022 国際理解講座②

地球のステージ

雲一つない青空の下、野外で開催された「地球のステージ」の様子を、桑山さんから寄せられたメッセージとともに紹介します。



桑山紀彦さん
NPO 法人地球のステージ
代表理事・心療内科医。

桑山さんが長年続けている国際医療支援活動を通じて、紛争地や被災地で出会った人たちとの交流やその時々への想い、大切にされていることなどを大画面の映像と音楽、語りで伝える「地球のステージ」。

今回のテーマは原点復帰。ステージはトラックの荷台、客席は広い芝生。強い日射しに遮られいつもの美しい映像はほとんど見えませんでした。桑山さんの歌と言ひと言に集中して耳を傾けました。最後に青空プチョガ教室も行われ、参加者は秋の1日を満喫しました。



◀ ブースには「地球のステージ」のグッズや手芸品が並び賑わいました。

Data イベントデータ

日時 2022年10月15日(土)
会場 兵庫県立尼崎の森中央緑地大芝生広場
共催 (公財)兵庫県園芸・公園協会
協力 フジトランスポート(株)、コープこうべ第1地区
*この公演は(公財)兵庫県国際交流協会民間国際交流事業から助成を受け開催されました。

地球のステージの
原点を想う

桑山紀彦=文・写真



地球のステージの初演は1996年1月15日なので実にもう26年も前の話になります。その当時は「いつの間にかボランティア」という写真とお話のみの「講演」をしていた頃で、いつも終わると不全感を抱えていました。「自分が伝えなかった彼らの実像の半分も伝え切れていない。彼らの生きる力のすごさはどうしたら伝わるのだろう」と考え続ける毎日でした。そしてたどり着いたのが「映画音楽ってやっぱりすごい」ということでした。どんなシーンでも音楽が被さってくれば素晴らしい場面が展開します。その時感じたのが頭で理解するのではなく、心で感じてもらうためには音楽と映像のシンクロ

が要だということでした。そして1995年末にかけて制作を行い、年が明けて1月15日(当時は成人の日)に初演を迎えたのです。それから26年。4000回の公演回数を超えた今思うのは、「原点とは何か」と言うことです。これほど長くやっている時折原点復帰をするべき時期が来ます。その一つがこの25年～26年目辺りの時期なのでしょう。「地球のステージ」の原点。それは子どもたちにとっては「行っていないのに、行ったような気持ちになる。ないしは行きたくてたまらなくなる」。大人にとっては「自分が何をすべきか考えさせられる。そして行動したくなる」というもののように思います。そのきっかけとなるのが、名前を持って出てくる登場人物。例えば初期作品で言えばフィリピンのロエナス。ソマリアのジェニファー。旧ユーゴスラビアの靴の少年やアリッサ。中期作品で言えば東ティモールのアカベト。パレスチナのモハマッド。イランのミラン。ジャワ島のリサ。後期作品で言えばパレスチナのファラッハとサディール。ミャンマーのエイエイさん。南スーダンのスーザンでしょう。こういった一人一人の主人公が心の中にぐいぐい入ってきて、ふしぎな化学変化を呼び起こす。それが「地球のス

テージ」の原点だと思います。

そしてその原点は1枚の写真です。それは2Kでも4Kでもなく、ただの現像された写真。堤防のロエナスの写真です。今の作品は語りに合わせてどんどん写真が切り替わり、テンポよく切り替わっていきますが、ロエナスの登場する語りは彼女のたった1枚の写真で2分語りませす。その写真が持つ意味は広大かつ想像力に満ちあふれ、聴く皆さんはたった1枚の写真でも、その向こうにあるロエナスの人生や生活、夢や希望に思いを馳せながら2分という長い時間、1枚の写真でついてきてくれるのです。これこそまさに「地球のステージ」の原点。だから10月15日の野外公演でほとんど写真が見えなくてもそれでよかったのです。それはつまり、「地球のステージ」は自分の内面に拡がる想像力に火をつけることだから、例え写真が1枚ずっと同じものとして出続けていても、仮にその写真が見えなくても、「想像する心」でついでくれば十分その世界に入っていけると言うことを証明したことになるという意味です。そんな貴重な気づきを与えて下さった野外公演。それを企画して下さい兵庫ユニセフ協会に感謝です。また共に新しい扉を開きましょう!(文中のロエナスは写真左から2番目の女の子)

MORE EVENTS

紅葉の美しい秋はイベントの季節！！

うみかぜ音楽祭 in Maiko

10月1日(土)

兵庫県立舞子公園特設会場



夏の日差しも残る一日、明石海峡大橋のたもとで開催されたイベントに出展し、クイズでユニセフの活動を紹介しました。ブース前に置いたネパールで実際に使われている水がめにはたくさんの人に興味をもってもらいました。

コロナの感染状況も落ち着き行動制限がない中、昨年秋に開催された各地のイベントに参加しました。ヒントを散りばめたクイズ、小さい子どもたちが大好きなユニセフ間違い探し、支援物資の展示、ポスターなどでユニセフの活動を紹介しました。お土産は折り紙の万華鏡とコマ、どれも好評でした。

姫路市医師会看護専門学校文化祭

10月22日(土)

姫路市医師会看護専門学校



文化祭への出展は3年ぶり。学生さんはユニセフのオリジナルエプロンを着て、来られた皆さんにユニセフの活動を説明。水がめや支援物資を紹介し、クイズや紙芝居と一緒に楽しみました。また行き交う人々に積極的に募金を呼び掛けていました。

にしのみやふるさとウォーク 2022

11月5日(土)

ろくたんじ おまえはま
六湛寺公園～御前浜公園



地図を片手にコースを巡り、クイズポイントで問題に答えながら、西宮の環境や暮らしについて楽しく学ぶ「にしのみやふるさとウォーク」。ユニセフは1番目のクイズポイント六湛寺公園を担当。参加者は大急ぎで問題に答え次へ向かっていきました。

コープこうべ生活文化センター40周年記念文化祭

11月23日(水・祝)

コープこうべ生活文化センター



展示・販売、体験イベントなど盛りだくさんの文化祭に兵庫県ユニセフ協会も協賛参加しました。「SDGs」と「子どもの権利条約」についての展示をし、子どもの権利で大切なことはどれかをシールで投票してもらいました。また、食器のお持ち帰りコーナーではお気持ちの金額をユニセフ募金として入れていただきました。



Activities File 活動ファイル

兵庫県ユニセフ協会の活動履歴

2022年9月～12月

活動一覽

Activities List

開催方法 (O)…オンライン (H)…ハイブリッド(会場/オンライン)

学習会一覽

月日	訪問先	対象	人数
9月 4日	みんなの尼崎大学 生活科学部 特別講座	大人	15
9月 8日	市川高等学校	2年生・教員	180
9月14日	神戸市立義務教育学校港島学園	中学1年生・教員	100
9月16日	宝塚市教育委員会 ひらい人権文化センター	小学生・大人	17
10月 4日	甲南女子高等学校	1年生	7
10月19日	姫路市立大津茂小学校	5年生・教員	100
10月20日	兵庫県立西宮今津高等学校	1年生	20
10月24日	コープ東加古川レインボースクール	大人	14
11月 9日	新多聞コープ委員会	中学生・大人	12
11月14日	西宮南コープ委員会	大人	10
11月15日	西宮市立生瀬小学校(O)	小学生	344
11月18日	さんだ生涯学習カレッジ	大人	14
11月24日	宝塚市教育委員会 またに人権文化センター	小学生・大人	12
12月 9日	豊能コープ委員会	大人	7

地域活動一覽

*ブース出展

月日	イベント名	
9月25日	平和学習会 「私たちの社会は 私たちの手でつくっていこう！」	
10月 1日	うみかぜ音楽祭 in Maiko	*
10月15日	2022国際理解講座②「地球のステージ」	
10月16日	コープ桜が丘組合員まつり	*
10月22日	姫路市医師会看護専門学校文化祭	*
11月 5日	にしのみやふるさとウォーク2022	
11月 5日	2022国際理解講座③「新しいボーダレス」	(H)
11月19日	コヨット!感謝のつどい(福島市)	
11月23日	コープこうべ生活文化センター40周年記念文化祭	*
12月 3日	2022国際理解講座④「映像で知る戦争と子どもたち」(H)	
12月 9日	三木緑が丘コープ委員会ユニセフ募金活動	
11/11・26、 12/3・24	第44回ユニセフハンド・イン・ハンド街頭募金活動 (明石、元町、住吉)	

※トライやる受入 神戸市立7中学校 2年生 16人

※インターン生受入 11月5・7日、12月3日 龍谷大学2年生 1人

募金一覽

2022年7月～10月

学校・団体名
生活協同組合コープこうべ、コープこうべ第7地区平和・防災企画委員会、兵庫県平和美術協会、尼崎市立南武庫之荘中学校生徒会、姫路市医師会看護専門学校文化祭
ご協力ありがとうございました。(兵庫県ユニセフ協会関係分 敬称略、順不同)

1 トライやるウィーク

9月13日(火)～16日(金)

本山中学校 宇佐美裕希さん、村上翔達さん

10月27日(木)～11月2日(水)(土、日を除く)

本庄中学校 大泉ナツミさん、柴田 楓さん、東 優莉さん、
淵上真衣さん

11月7日(月)～11日(金)

上野中学校 田中杏奈さん、原田勇慈さん

歌敷山中学校 片岡悠奈さん、谷采花さん

西代中学校 向井理梨さん

御影中学校 池埜真和さん、稲田咲夏さん、緒方美由紀さん

義務教育学校港島学園 荻野 育さん、小嶋一颯さん

2022年秋、神戸市立中学校の2年生16人が2年ぶりのトライやるウィークで兵庫県ユニセフ協会にやってきました。ユニセフの活動についてボランティアから話を聞き、外国コインの仕分けをしたり、街頭募金をしたりして、学校とは違った体験をたくさんした期間になりました。



2

2022 国際理解講座④

映像で知る戦争と子どもたち
～中東・ウクライナの現場から～

日時 2022年12月3日(土)

会場 コープこうべ生活文化センター / オンライン

参加者 83人

玉本さんは昨年7月末から1ヵ月間ウクライナ南部のオデーサを拠点に取材しました。ロシア軍の侵攻から5ヵ月経ち一見平穏そうですが、取材中にも爆撃があり近くの地下シェルターに避難。ロシア軍はミサイル攻撃で民家だけでなく生活に必要な水や電気などインフラを破壊していました。

ミサイル攻撃で家を壊された4歳の男の子は、怖い思いがよみがえり元の家に入ることができません。2週間前に父親を亡くしたばかりのアニメやコスプレの大好きな少女は、母親が悲しむからとつらい気持ちを出しません。今、子どもの心の傷が大きな問題になっています。取材した団体ではこの子の世話をし、子どもたち一人ひとりにぬいぐるみを渡します。名前をつけたりハグしたりして子どもの心は少

知る戦争と子ども



玉本 英子さん

ジャーナリスト。アジアプレス大阪オフィス所属。20年以上中東地域を中心に取材。第54回ギャラクシー賞報道活動部門優秀賞・第26回坂田記念ジャーナリスト賞特別賞受賞。



写真提供 玉本英子

しずつケアされます。

一方2019年にIS(イスラム国)が撤退したシリア・イラクでは、少年兵の社会復帰やIS戦闘員の孤児たちの問題が起きています。取材したダッカ近郊の避難民キャンプには孤児たちのテントがありました。戦闘員には外国人も多く、子どもたちの国籍も様々。自国では引き取ってもらえず、大人への不信感を抱き愛情に飢えて暮らしていました。

地域やきっかけは違っても、戦争の一番の犠牲者は子どもたちです。戦争は何気ない平穏な日常を、家族をそして未来まで奪ってしまうのです。一旦始まった戦争を止めることはとても難しいことです。始まる前に止めることが大切なのです。

3

第44回ユニセフ

ハンド・イン・ハンド街頭募金活動

日時 11月11日(金)・26日(土) / 住吉

12月3日(土) / 住吉

12月24日(土) / 明石・元町

11～12月はユニセフハンド・イン・ハンド募金キャンペーン期間です。世界の子どもたちを取り巻く状況はコロナ禍でより厳しくなっています。今回のテーマは「最も厳しい状況にある子どもたちの願いをかなえよう



～生きたい! 食べたい! 学びたい!～」。

トライやるの中学生も参加し、3年ぶりに街頭で募金を呼びかけ多くの人にご協力いただきました。ありがとうございました。

from Volunteers

ユニセフと私、 出会いは「地球のステージ」

子どもが幼い頃は余裕なく生きてきましたが子どもの成長につれ自分の人生を考えるようになり、野外活動やボランティアに参加するようになりました。その中で桑山紀彦さんの「地球のステージ」を見て大変感銘を受けました。もっと広い視野をもって生きていかないとだめだと痛感しました。それがユニセフとの出会いでした。

ユニセフでいろいろな方の話や他の国の事を聞くことはとても勉強になり、それを人に伝えていきます。先日、3年ぶりに「地球のステージ」をみて初心を思い出しました。なかなか大きい活動はできていないので歯がゆい力のなさを痛感していますが、自分の置かれている中で少しでも出来る事をしていきたいと思っています。子どもにも視野の大きい人になってほしいと願いボランティア活動をしてほしいと思うのです。約15年前災害で命を失いかけてました。生かされた命に感謝し自分に出来る事を頑張っていきたいと思っています。(定元)



ユニセフ募金 Donations For Unicef

■ 通常募金

通信欄記載事項	振替口座	手数料
K1-280 兵庫	00190-5-31000	免除

■ 緊急・復興募金

	通信欄記載事項	振替口座
ロヒンギャ難民	ロヒンギャ K1-280 兵庫	00190-5-31000
シリア	シリア K1-280 兵庫	00190-5-31000
アフリカ栄養危機	アフリカ K1-280 兵庫	00190-5-31000
自然災害	自然災害 K1-280 兵庫	00190-5-31000
人道危機	人道危機 K1-280 兵庫	00190-5-31000
新型コロナ ウイルス	コロナ K1-280 兵庫	00190-5-31000
ウクライナ	ウクライナ K1-280 兵庫	00190-5-31000

*共通口座名義：公益財団法人 日本ユニセフ協会
*郵便局窓口から専用振込用紙を使って振り込むと手数料は免除されます。専用振込用紙は事務局にありますのでご連絡ください。



いつでも
どこでも
気軽に募金

<https://www.unicef.or.jp/sp/>

Wish vol.69

ユニセフ兵庫ニュース Wish

2023年1月発行

発行：兵庫県ユニセフ協会

住所：〒658-0081

神戸市東灘区田中町 5-3-18
コープこうべ生活文化センター

電話：078-435-1605 (平日 10:00 ~ 16:00)

FAX：078-451-9830

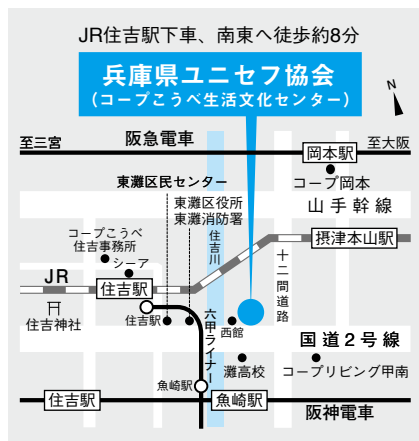
E-Mail：h-unicef@kobe.coop.or.jp

●最新の情報はホームページで

<https://office-bit.com/unicef-hyogo/>

兵庫 ユニセフ

検索



Join Us 主催イベント

各日程は変更になることがあります。
詳細はホームページをご覧ください。

参加費
無料



ユニセフのつどい vol.21

日時 3月4日(土) 12:00 ~ 15:30

会場 コープこうべ生活文化センター/オンライン

年に一度開催している兵庫県ユニセフ協会のお祭りです。

講演会「誰一人子どもを取り残さない世界を目指して」(UNICEF シリア事務所副代表の根本巳欧さん)、和太鼓パフォーマンス『大地』(神戸市立須磨翔風高等学校和太鼓部)、フェアトレードを中心とした商品販売他。

2023 国際理解講座① 「想いをカタチに 未来をつむぐ」

日時 4月29日(土・祝) 13:30-15:30

会場 神戸学生青年センター(予定)

講師 吉川雄介さん

定員 50人

講演では、マラウィでの保健医療活動とともに、一歩踏み出すことについてお話いただきます。



ベネッセコーポレーションに入社、社外活動として途上国支援のNPO組織を立ち上げる。2015年に独立しNPO法人 Colorbath、株式会社カラーバスを設立。アジア、アフリカにて世界とつながる教育事業や途上国に雇用を生み出すソーシャルビジネス事業を展開。ダボス会議 Global Shapers Community メンバー。ビル・ゲイツ財団 Vision Hacker Award 大賞受賞。関西学院大学非常勤講師。

新型コロナウイルス感染症の今後の動向により、変更・中止させていただく場合があります。参加ご希望の方は必ず事前にご確認下さい。

参加申込みはホームページ上の申込みフォームでも受け付けています。

お問い合わせ
TEL 078-435-1605

事務局からのお知らせ

兵庫県ユニセフ協会「第25回理事会」「第13回評議員会」を開催しました。

日時 2022年12月8日(木)

会場 コープこうべ住吉事務所

今回は役員改選の年にあたり、まず役員候補者を選任いただきました。その後、2022年度の活動報告や2023事業計画など、さまざまな視点から広くご意見をいただきました。20年を振り返るとともに、これからも子どもの権利を理念とするユニセフ活動を通じて、誰もが安心して暮らせる毎日、誰一人取り残さない社会に向けて、他団体との連携の中で活動を進めていくことを確認しました。

ボランティア募集中

世界の子どもの笑顔のために

「できる人ができる時にできる事を」をモットーに活動しています。

ユニセフという言葉は知っているけれどどんな活動をしているんだろう？私にできることはなんだろう？と思われた方、ぜひ事務所に一度ご連絡ください。あなたの一歩をお待ちしています。

兵庫県ユニセフ協会
紹介リーフレット

